



新板  
繪入

自笑樂日記  
二之巻

特別  
~13  
3548  
2



13  
3548  
2



白樂日記卷之二

目錄



第一 小判の運送こばん たんぱんとてんてん

馴染みぬなみぬぬててをを娘むすめがが縁ゆかり

ほほふふててももくくららいいるる馬うま大おほ

切角きりかくははけけとと首あたま尾びををかかららぬぬ酒さけ



昭和三十一年  
七月二日  
購求

第二

飄箏屋の氣持を昔の色好

ちまひ先づりあふお世推流昔の

女房まで勅氣をゆるさぬ綴錦

親のまきれ金おはき高き名持

おと

神のづきののおとふ書系

長者おせつがたりとられ一代記

西ヶ市をあてあつるま女筆始

番頭が芳いけは伊ふ世帯樂

① 小判の送信をうゑんを爰に流

西のたけおや。おぬの紙屋石垣西の六條吉の折り風ぬ

もぬらとおとまねくとも。すかやまお世書いはいはきお世書

おとづき。おとづきとくおとづき。そのおとづきおとづき。おとづき

おとづき。おとづきとくおとづき。そのおとづきおとづき。おとづき

おとづき。おとづきとくおとづき。そのおとづきおとづき。おとづき

おとづき。おとづきとくおとづき。そのおとづきおとづき。おとづき





いしつゝ  
斤とて級考  
相の面八二人  
西のりなと  
長傳はよか

五ノ  
カ



大公若女  
二人八  
杏屋遊

いしつゝ  
斤とて級考  
相の面八二人  
西のりなと  
長傳はよか

いしつゝ  
斤とて級考  
相の面八二人  
西のりなと  
長傳はよか









あつては... 久々の償... 細... 賢... 所中... かしら... 一... て...  
あつては... 久々の償... 細... 賢... 所中... かしら... 一... て...  
あつては... 久々の償... 細... 賢... 所中... かしら... 一... て...

子七... たて... こし... 志... わ...  
子七... たて... こし... 志... わ...  
子七... たて... こし... 志... わ...

二 飄... 氣...  
二 飄... 氣...  
二 飄... 氣...

... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

中へ包めしそまほども物色へ案内を頼むおしく出てきども  
 おどろ狩もなれどはして地をかりまだ修屋修築東方の女帝  
 かたち巴ふま遠わごとあししま名の女帝よりよびても  
 あらわをびめて。瘡くかるといつひきくつほきつるま  
 の西息女あてわらぶきしとまほどもみどりありあまをむきも  
 どもまほども地を中もむきとたに由院よりんるんら  
 けれどを成はらぬあしきまきおと。やまふ事もほき  
 中に色氣をとりしわさび女帝もさおどくけれど。あ  
 しくさほほまこふひとねいおたのこめて親う足のおく  
 極よおりのりもあまらりぞり。げあまなをほりて。親  
 などを守りなきとて信じる女帝のけり。かひいようねを  
 よよりすくわらぬ。わらわらぬおめてけり。まよと持た人

すぐれて親者を信じら女帝わらり。いづれもいづれ  
 わらに味方の乳字をよすか。りへ。成守といふ。あま。遠  
 といふ女帝を女帝。ら。ほの。誓。肩。を。け。ぬ。る。家。臣。は。か。に  
 ナ。一。系。より。わ。へ。ら。ま。て。今。属。親。といふ。全。盛。の。女。帝。一。は。八。家。の  
 正親者を守りけり。信。信。大。か。と。け。り。げ。お。り。を。む。く。は。天。と  
 とおひいておむむと。終。文。大。せ。の。め。つ。を。を。運。送。本。屋。へ。こ。め。と  
 つ。か。か。汁。の。本。帝。脚。と。り。げ。さ。へ。も。要。た。お。て。ま。つ。か。の。を。か。と  
 け。ら。り。あ。り。を。ま。ま。を。新。可。め。て。わ。ら。保。り。を。ら。く。さ。師  
 の。浦。ま。は。ま。ま。ん。そ。こ。と。こ。人。を。で。う。か。づ。き。家。来。も。ま。ま。か。を  
 二人中にまを。ま。ま。の。か。の。を。お。り。を。を。の。せ。位。を。屋。より  
 わがり。何。ぞ。ま。ま。の。西。息。女。を。以。て。わ。を。下。され。は。う。の。家。来  
 お。續。つ。を。新。ふ。と。終。人。に。ま。わ。ら。げ。さ。安。立。所。へ。か。り。お。り。を。









計は中ありよりとふりしとさ。そもわをせてみ格余人。  
手はより不男扱もかぎりもさ。さうさ人見せぬ新くは長君たる。  
幕下の一万奥小娘とんさる。並取中たごを並ひうたぐ。番頭  
も代握も衆をうくまねき。山声にかり。その方ハ身が直心か  
ほきておらぬ。たぬのたし。何をつてもちうたひ。あつて  
まもくつらなはゆりてめく。は色高貴みねはさ。日理研十人  
まも中づこころのけささやうくそ。お人吸出をいもを  
けぼを月ひ女弟とつ。京大飯めてゆさうわん。なうさこの  
ざり。油やさふこ人のへ。貸やん人の貸みか。さ。ほまら。身代  
今の唐花と十一お時か。ふりあてりもたさ。もう。歌と  
は。さうとありよ。身の内。め。さ。な。よ。さ。び。に。あ。う。じ。と。あ。ん。ほ。う  
あて。え。は。き。ば。か。ふ。さ。お。の。高。貴。と。ら。う。は。い。さ。ま。し。う。い。い。

てかありがけふ。おは。さ。に。去。表。不。思。後。の。果。実。と。か。う。ゆ。り。  
て。より。さ。ひ。も。さ。あ。お。母。お。か。り。も。な。さ。さ。金。あり。又。花。道。と。ゆ。り。  
小利の入る。取布とひ。お。月。も。は。に。さ。さ。人。女。弟。と。抱。き。は。  
よ。い。あ。ざ。り。金。わ。げ。は。あ。の。さ。ふ。け。か。い。さ。う。と。あ。う。け。身。代  
と。なる。事。我。な。う。不。思。後。あ。ら。り。あ。う。牌。打。と。初。に。未  
よ。め。な。し。う。と。若。を。わ。れ。ま。い。に。て。り。け。お。母。の。女。弟。な。ご。と。女  
房。に。せ。う。な。ご。う。さ。た。の。せ。不。思。後。お。た。女。房。お。て。て。志。ま。り。も  
な。れ。い。の。方。さ。さ。と。れ。が。今。の。身。代。お。か。け。あ。さ。う。い。は。え  
お。と。う。く。さ。さ。あ。あ。い。さ。ご。あ。貴。う。さ。お。貴。目。位。の。身。と  
な。さ。い。不。思。後。と。ん。と。お。後。ま。い。よ。あ。へ。の。た。れ。さ。ん。が。う。さ。な。ら  
ま。い。娘。お。母。つ。り。の。さ。物。お。お。持。さ。う。か。の。入。用。と。あ。て。あ。ら。せ  
金。で。め。ぬ。お。母。の。女。弟。お。お。持。人。へ。こ。り。は。き。ひ。こ。り。あ。は。ま。は。い。







